



市民がつくる 希望の政治

国政改革へチャレンジ **小金井市** 武蔵野市 西東京市

松下玲子

前武蔵野市長 / 立憲民主党東京都第18総支部長



まつしたれいこ プロフィール

1970年生まれ。実践女子大学文学部卒業後、サッポロビール入社。2004年早稲田大学大学院経済学研究科修了。松下政経塾での研修を経て、2005年・2009年武蔵野市選挙区で都議会議員選挙に当選。2017年市民の要請により武蔵野市長選に立候補して当選、2021年に再選。2023年11月末退任。現在、立憲民主党東京都第18総支部長。家族は夫と子ども。

松下玲子 は 都議、市長としての経験と 成果を国政に活かします

子どものいのちと健康

市長として重点的に取り組んだのは子ども子育て支援でした。保育園待機児童ゼロ、18歳までの医療費の所得制限のない完全無償化を実現。学校給食費無償化に向け取り組んできました。子どもは住む場所を選べません。こうした政策は、国の責任で、すべての自治体で実現できるようにします。

原発ゼロ 気候危機は待ったなし!

福島第一原発事故は都議の時。市長になってからは原発に依存しない脱炭素社会をめざし「2050ゼロカーボンシティ」の表明、再生可能エネルギーの導入、自治体「気候市民会議」を全国に先駆けて実施。自民党が強引に推進する原発帰帰ではなく、再エネの普及で原発ゼロとCO₂削減をめざします。

多様性とジェンダー平等

武蔵野市は、性の多様性への理解と尊重をうたう「レインボームサシノシ宣言」を行ない、電話相談も開設。LGBTQや事実婚カップル対象の「パートナーシップ制度」を導入し、ジェンダー平等施策、女性管理職登用なども進めました。選択的夫婦別姓や同性婚を認めるよう民法を改正します。

武力で平和はつukれない

武蔵野市は、零戦エンジンを生産していた中島飛行機が初空襲を受けた11月24日を「武蔵野市平和の日」とし、犠牲になられた方に哀悼の意を表し子どもたちに平和な世界を継承していく平和事業を行っています。政治の役割は「戦争をしないこと」。実行してきた平和教育、平和外交を推進します。

地域の課題と国政をつなぐ

都議と市長の経験からいえるのは「地域の課題は国政につながっている」ということ。市長としてコロナ感染と日々向き合う中で、国の硬直した方針に翻弄されました。小金井のはけと野川を壊す「都市計画道路」の背景にある、従来型の車優先、大型公共事業中心の国の制度や政策を変えていきます。

松下玲子こがねい市民応援団

「松下玲子こがねい市民応援団」は、松下玲子さんを国政に送り出したいと思う小金井市民が声をかけあい、スタートしました。それぞれの市民が自分のできることやアイデアを持ち寄り活動しています。「政治とカネ」によって私たちは政治に失望してしまっています。でもあきらめることはできません。市民の手に政治を取り戻すためのチャレンジです。「市民がつくる 希望の政治」は、私たちの合言葉。ぜひあなたも。

小金井のみなさまへ

武蔵野市に住み、都議、市長と約20年間政治活動をしてきて、お隣の小金井市には市政やまちづくりに市民の活発な活動があることを感じていました。今改めて、小金井市内を歩いて、緑豊かな自然とその貴重な自然を復元し保全する長年の市民の活動が、至る所に息づいているのを感じています。国政に目を向けると、自民党政権の裏金や利権政治、急速な少子化や人口減少など、重要な問題の先送りによって人びとの暮らしが脅かされています。人権が守られて平和で自由で持続可能な社会を目指して、小金井のみなさんとともに、希望の政治をつくりたいと思います。

松下玲子



コミュニティ・カフェで茶話会

本町のコミュニティ・カフェ「わ・おん」で市民とおしゃべり茶話会



東小金井駅で街宣

朝の通勤通学時間帯は駅前でも演説



都市計画道路反対の市民と対話

都立武蔵野公園内、都市計画道路・優先整備路線3・4・11号線予定地で市民と意見交換



市民とおしゃべりランチ会

中町の「にしまきごはん」でベジランチ会



多摩と都心をつなぐ水辺・玉川上水

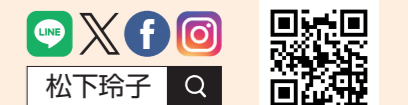
玉川上水は東京の生き物をつなぐグリーンベルト

OPEN! 松下玲子インタビュー

松下玲子大集会

10月9日(水)
18:00~19:30
武蔵野公会堂

〈参加予定〉
菅直人 衆議院議員
辻元清美 参議院議員



松下玲子さん 小金井市へようこそ

小金井市民から見た松下さんはわが市よりも財政的にちよつと豊かな武蔵野市の前市長でチャレンジングな人という印象ではないでしょうか。活動範囲を小金井、西東京にも広げた松下さんのお人柄を知りたくインタビューします。(聞き手・横須賀雪枝)

Reiko Matsushita Interview



松下さんはどんなお子さんでしたか？

私の昔を知る人たちからは「全然変わってないよね」とよく言われます。活発で木登りをしたり、空き地に秘密基地を作ったり、毎日たくさん遊んでとても元気な子でした。

新聞記者の父の転勤で名古屋で生まれて幼稚園は東京、小学校から横浜、中二で苫小牧市に引っ越しました。その後また父が三重に転勤になったのですが、私は高三だったので一人で一年間下宿して、卒業まで苫小牧にいました。

何度も転校を経験したので、友人と別れる寂しさと新しい友に出会う期待をいつも同時に感じていました。転校生は一人で乗り込むから注目されるけれど、こちらはみんなの名前を覚えなくちゃいけなくて大変でした。でも今、どんなところに行っても

もすぐに馴染んで仲良くできるのはその頃の経験が活きているのかもしれないね。

そして、大学から社会人へ。その頃のお話聞かせてください。

上京して大学では美学美術史を学びました。就職も美術史を考えていましたが、バブルがはじけ就職難となり、二番目に好きなことはなんだろうと考えてみたら食糧メーカーで働きたいと考えるようになりました。ものを作って販売し、利益をあげて社会に貢献する仕事をしたいと思ったんです。大変な就職活動でしたがなんとかサッポロビールに就職できました。

政治をめざすきっかけに興味があるのですが。

シヨックなことがあったんです。パート勤務の方々の人事労



気づいた人が行動しないと 社会は変わらない

務を担当する部署で働いていた時に、パートさんたちが「130万の壁」に苦労して、夫の扶養から外れたいための課税収入を増やせず、他のところで領収書を改竄して調整しているのを見つけてしまいました。すごくシヨックで、どうして真面目でやる気もある女性がこんなことをやってしまうのかと思い悩み、これは扶養控除の制度が間違っているのが原因だと気がつきました。

変えていかなければと思って、社内でも色々やってみました。すぐに変えることは難しかった。私の中の正義感がぐるぐる回ってしまつて、会社の外から変えていかなないとダメだと思って、社会構造、経済についてもっと学びたいと思い、退職して大学院に進学しました。

お仕事辞めてしまったんですか？

周りからは「辞めることはないだろう。せっかく総合職にもなったのにもったいない」と言われましたが、不正を見つけて黙って目をつぶっていることはできなかった。気づいた人が行動して変えていかないと社会は変わらないと思って。今もそういうものが原動力なんだと思います。もちろん、その時はすぐに政治家になろうと思つたわけではないのですが、学ぶ中で、社会を変えるには政治しかないという気持ち膨らんできました。

そして、34歳の時、チャンスがあつて武蔵野市で都議会議員になりました。

「政治の世界」に入って、いかがでしたか？

女性が余りにも少ない！ 社会の半分は女性なのに、議員も少なければ、市長や区長などの首長は全国で約2%。98%が男性首長ですよ。議員も市の管理職もほとんどに女性は少ない。そういう時は当時都議会は喫煙が可能なため、妊娠中の受動喫煙はすごく大変でした。他にも一般社会とかけ離れているのではと思うことも多々ありました。小さな子どもをかかえて大変でした。政治と生活は密着していないといけないと思いましたね。

都議を2期8年、そして武蔵野市長になられたのですよね。

市長として6年、多くの新しいことに取り組みさせていただきました。でも新しいことをやるうとする必ず抵抗があつて、例えば市有地に保育園を作る予定が、近隣住民の反対などがあつて私が市長になる前から止まっていたんです。でも私は絶対作るべきだと思つて説得を重ねてやり遂げました。やってよかったと思つています。

18歳まで医療費助成もありません。好きで病気になる子はいません。子どもの医療費しっかり支えたいじゃないですか。

子育ては本当にお金がかかりますよね。

子育て政策は自治体の努力だけでは限界があります。国の制度が必要なんです。国の誤つた政策で自治体が振り回されることをコロナ禍で何度も体験しましたし、健康保険証廃止だって大変なことで、市で抵抗しても止められない。外環道の問題もそうです。これは

国政を変えなければと強く感じたのも、市長を経験したおかげだと思つています。

地域の課題や日々の暮らしが政治と深くつながっているのですよね。そのことが見えてくると、政治が身近なものになってきますよね。

小金井の大きな課題はけと野川を分断する都市計画道路です。現地を歩かれていかがでしたか。

東京とは思えない自然が残っている奇跡のようなところで、子どもが小さい時に連れて遊びにくればよかった！ 都市計画道路をあそこに通したら環境は激変してしまいますよね。人口は減少し里山的自然環境も見直されているのだから、高度経済成長期に作られた計画はいったん立ち止まらなければいけないと思います。道路はここに必要ありません。車優先のまちづくりにから脱却、脱皮しないと。これも国の政策の転換が必要です。政治家に任せたら大丈夫と思つている方も多いと思いますが、任せすぎた結果が今で、政策は歪められて裏金事件も起きるわけです。市民の方ももっと政治に関心を寄せてもらつて一緒に変えていきたいです。

今が、「希望の政治」に向けた大きな一歩を踏み出す時ですね。今日はありがとうございました。

インタビューを終えて……

松下さんと私は1歳違いでほぼ同世代、そして同じ多摩地域で子育てしている母同士でもあります。「美術が好き、食べるのも好き」とさらに自分との共通点を見つけ、ますます親近感がわきました。気さくに何でも話せて、さまざまな問題意識を共有できる人です。こういう



人にぜひ国会に行つてほしい。「気づいた人が行動して変えていかないと社会は変わらない」一番印象に残つた松下さんの言葉でした。

よこすかゆきえ・はけと野川に魅かれて2009年より小金井に住む。雑誌『民藝』元編集者、市内デザイン事務所勤務。

